



WASEDA UNIVERSITY

Global30 Project Follow-up FY 2012 WASEDA University

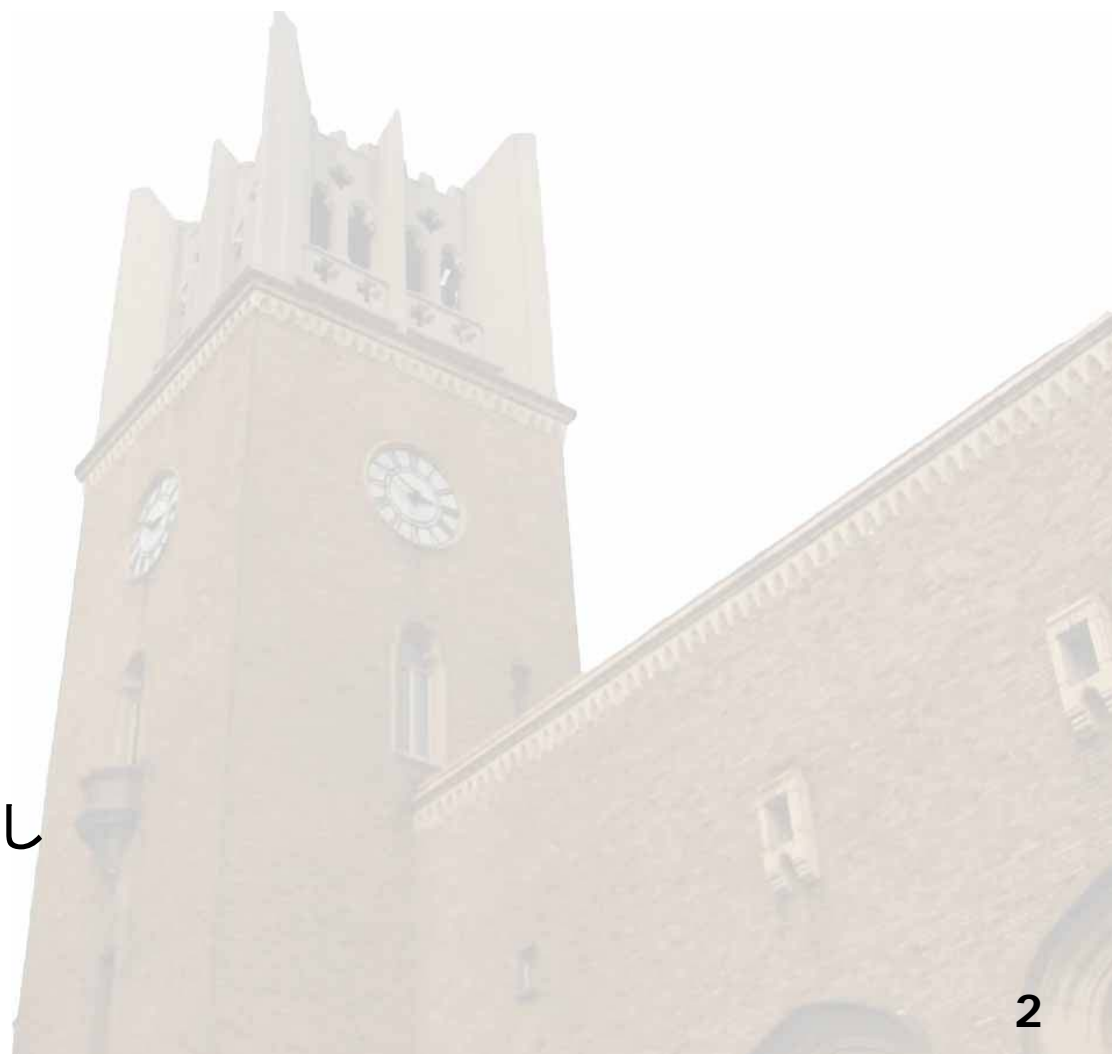
大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業 2012年度 フォローアップ

早稲田大学
国際部長 広田 真一



目次

1. 早稲田大学の国際化戦略とG30
2. 本事業の成果
 - ① 特筆すべき成果と波及効果
 - ② 各コースの特徴及び学生の声
 - ③ 外国人学生の受入及び派遣実績
 - ④ 海外大学との連携プログラムの新たな実施
 - ⑤ 大学間交流協定等に基づく交換留学の拡大
 - ⑥ 教育体制の充実
3. 取組状況
 - ① 英語による授業のみで学位が取得できるコース
 - ② 留学生受入のための環境整備
 - ③ 拠点大学の国際化とネットワーク形成
4. 経費の使用状況
5. 今後の取組施策と事業終了後の見通し
 - ① 今後の重点項目と取組施策
 - ② 補助金の終了後の見通し





WASEDA UNIVERSITY

1. 早稲田大学の国際化戦略とG30



WASEDA UNIVERSITY

早稲田大学の国際化戦略とG30

「早稲田からWASEDAへ」～国際化への取り組み～

早稲田大学はこの十数年間、大学の国際化に向けて様々な改革を遂行してきました。特に2008年度からの10年間を目標とする大学の将来像を策定した「Waseda Next 125」の中で国際化を最優先事項と位置づけ、「早稲田からWASEDAへ」をスローガンに、日本の大学であることを超える、すなわちグローバルユニバーシティとしての「WASEDA」を構築することを目指してきました。今回、G30の採択を受け、本学の国際化を大きく拡大・深化させることができましたが、引き続き大学の国際化に向け改革を進めて参ります。

教育の国際展開

- 受入留学生8,000人
- 全早大生に海外学習機会の提供
- 留学生のキャリア支援
- F Dの推進
 - －米リベラルアーツカレッジへの派遣研修
- 外国人教員比率20%
- 学部カリキュラムの英語化
- グローバルカレッジプログラム
- 日本語教育プログラム
 - －留学生の卒業時には一定レベルの日本語能力を習得

研究の国際展開

- トップクラスの外国人研究者のリクルート
- 国際研究連携
 - －北京大学との共同環境系大学院
 - －TLO、インキュベーションの国際連携
- 国際産学連携
 - －国際コーディネータ
- 新学術分野の創出
- 国際研究観念の拡大

早稲田からWASEDAへ

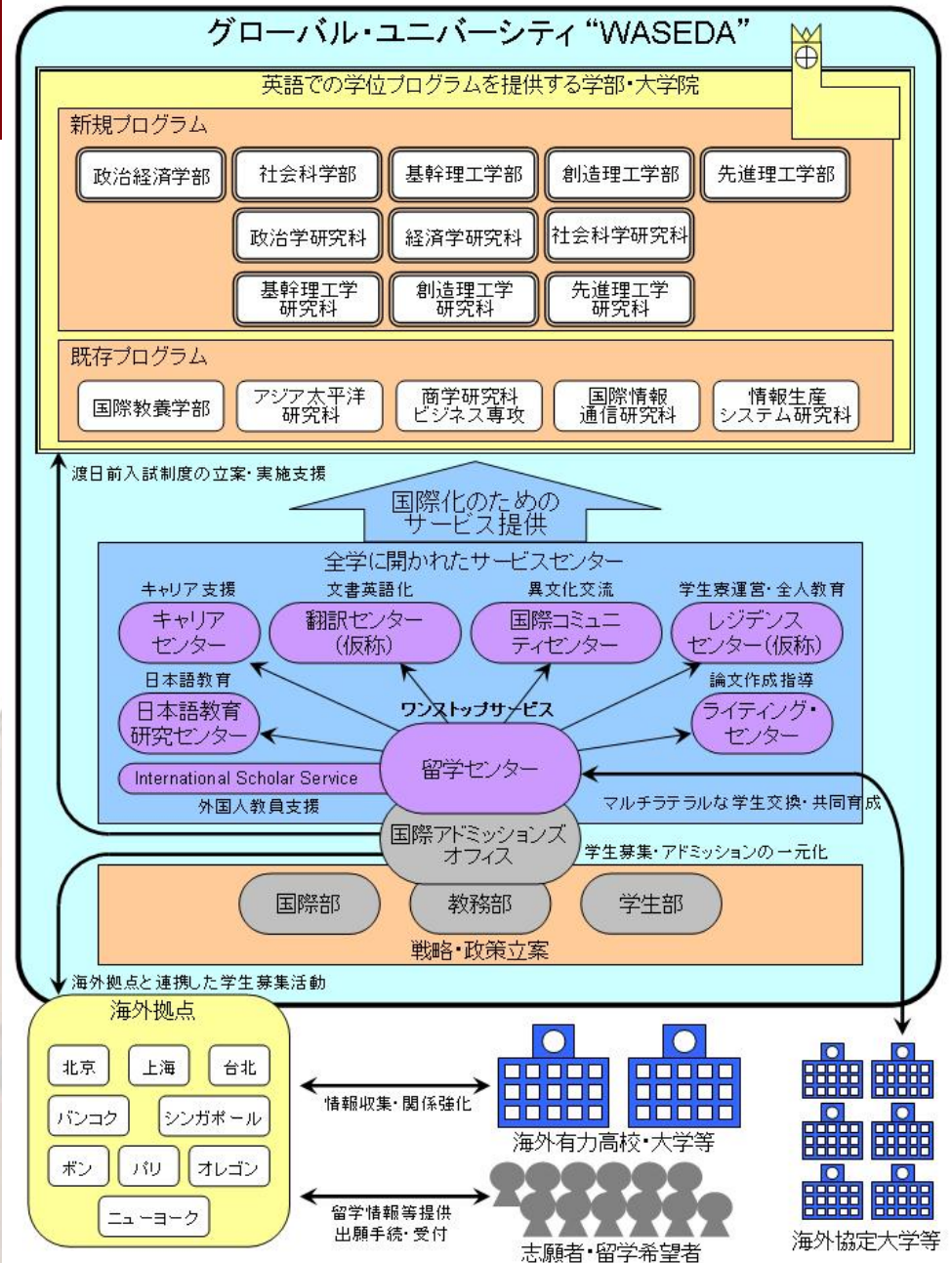
- アカデミックカレンダー変更
- 海外拠点の充実と戦略化
- 新たな財政基盤の確立
 - －恒常的募金活動、大学債起債、各種ファンドの設立
 - －業務構造改革によるコスト削減
- キャンパスの国際標準化(バリアフリー・多言語サイン計画)
- 寮の充実(留学生+地方学生3,000名受入)
- ホームページ、教職員の多言語化
- 外国人招聘教員の制度改革

経営基盤・インフラの国際展開

- 教育研究成果の国際発信
 - －国際ニュースレター
 - －研究成果の多言語発信
 - －所蔵資料の国際発信
- 研究成果を社会に還元
- 国際ボランティアの充実
 - －世界20ヶ国以上でのボランティア活動
- 高等教育未整備地域への教育・研究支援
 - －アジア・アフリカ・中東・南米

社会貢献の国際展開

国際化拠点の概念図





WASEDA UNIVERSITY

2. 本事業の成果



①特筆すべき成果と波及効果

❁ 外国人学生数が2008年度比 47%増加

⇒日本人学生、教員の意識の変化(海外を意識)

❁ 海外への派遣留学生が2008年度比 56%増加

⇒グローバル人材を育成

❁ 外国人教員の採用割合が上昇

2008年の外国人教員比率8.6%に対し、2009年以降の新規嘱任に占める外国人教員の割合は12.2%

⇒教育の活性化、海外との共同研究数の増加

❁ 海外共同事務所(独ボン)の有効活用

⇒留学フェアによる日本の大学のプレゼンスの向上、大学間の交流促進・情報共有



②各コースの特徴及び学生の声

グローバル日本政治経済コース
国際政治経済学コース(政治経済学術院)

プログラムの特長

- ゼミ形式の**少人数授業**
- インターンシップ**への積極的な参画
- 日本の文化を体験する**スタディーツアー**

現時点での成果

- ✓**担任制度**による親身なサポートへの高い満足度
- ✓英語・日本語**ハイブリット教育**による高い教育効果
- ✓**実践的授業**による高い学習効果
- ✓質の高い**インターンシップ**の実現と日本で働くことへの職業観の醸成



Students' Voices

イ ヘリム
政治経済学部 政治学科

政治学と経済学を同時に学べる点に魅力を感じ、政治経済学部に入學しました。学べば学ぶほど、二つの分野が密接に関連していることが分かり、どちらの分野もさらに興味深くなります。様々な国籍、文化的背景を持ったクラスメートに刺激を受けながら学ぶことができる環境です。

ディルムロドゥ ユスポフ
経済学研究科 経済学コース(修士課程)

経済学研究科の最大の魅力は、その素晴らしい研究環境にあります。経済分野における最先端の知識を習得しようと世界中から志の高い学生が集まり、幅広い分野におけるトップクラスの教授陣・研究者がその指導にあたります。国際色豊かな学生たちが相互に影響し合い、切磋琢磨しながら研究できる刺激的な環境がここにはあります。



大手企業でのインターンシップ・プログラム

実施時期	都市名	参加学生数
2012年3月	東京	2
2012年8月、9月	東京	7
	シンガポール	2
	上海	2
	ソウル	1





②各コースの特徴及び学生の声 国際コース(理工学術院)

プログラムの特長

- 3学部11学科、3研究科9専攻(修士)、3研究科19専攻(博士)に渡る**多彩な専門分野**を有する。
- 歴史と伝統に裏打ちされた**高度な専門知識・技術**の習得。
- **体験型学習**の重視
- 出身国籍の多様性から生じる**国際感覚**の醸成。

現時点での成果

- ✓ **多様な留学生と交流**できる環境への高い満足度
- ✓ 教授による**手厚いフォロー**への高い満足度
- ✓ 実践的な技術を身に付ける徹底した**実験教育**による高い学習効果(教員だけでなく技術系スタッフによる実験サポート、充実した研究設備)

Students' Voices

学部学生

- ✓ 授業は忙しいが、サークルや部活、バイトなどと両立して充実した学生生活が送れている。
- ✓ 忙しさなどの問題はあるが、高度な研究に携わることができ、早稲田大学に留学して良かったと思っている。
- ✓ 同じコースの大学院生と交流する機会があり、刺激を受けることができる。

修士学生

- ✓ 授業の後、英語で個人的に説明の時間を設けてくれるなど、大学のサポートが手厚い。
- ✓ 日本語の授業の後、メールを通して質問をすると、指導教員から丁寧な返事がもらえる。
- ✓ 今の研究室の研究レベル、友人に満足しており、博士課程への進学を考えている。





②各コースの特徴及び学生の声 現代日本学プログラム(社会科学総合学術院)

プログラムの特長

- 人文学、自然科学、社会科学などからなる新しい**学際的アプローチ**による、まったく新しいタイプの「日本学」
- 「世界の中の日本」「文化と歴史」「社会と政治」「技術と環境」:**4つのテーマ領域を横断**する多角的研究
- グローバル時代の地球的規模の課題を解決し得る**グローバルリーダー**の養成
- 徹底した**少人数教育**による高い教育効果
- グローバル時代に適う**コミュニケーションスキル**の育成

現時点での成果

- ✓ **国際的**な教育研究環境の創出
- ✓ 学生への親身な**アドバイス**への高い満足度
- ✓ 「座学」の枠を越えた**「実地見学」**(フィールドトリップ)による高い学習効果



Students' Voices

「現代日本学プログラム」で学ぶことはとても刺激的でワクワクします。授業科目の多様性はもちろんのこと、活発なディスカッションやブレインストーミングを行うためのよい機会を与えてくれる「少人数教育」によるところが大きいと思います。

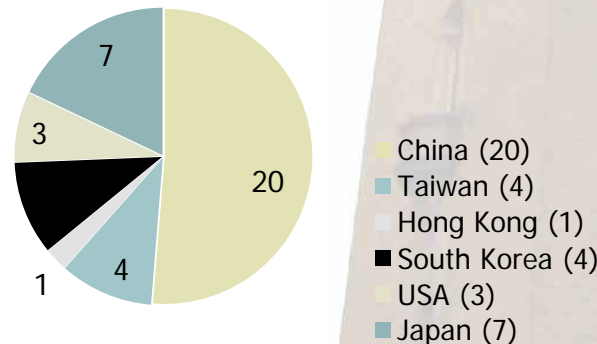
「英語学位プログラム」なので、すべてが授業は英語で行われますが、同じ学部の「日本語学位プログラム」で学ぶ、英語の堪能な日本人の学生と机を並べる機会もあります。このような相互交流も可能な授業スタイルを通じて、現代の日本の姿をより深く知ることができることも大きな魅力です。

「現代日本学プログラム」で学んだことはとても有益だと実感しています。リサーチスキル、研究と実践の融合など、これからの学習に欠かすことのできない重要なスキルを身につけることができよかったです。

「現代日本学プログラム」での学生生活は快適で心地のよいものです。日本語もしっかり習得できるようにきめ細かなレベル分けによる日本語科目も提供してくれますし、オフィスのスタッフもとても優しく親切で、本当にありがたいと思っています。

左 凌ヨウ(サ リンヨウ)さん(中国出身、2011年9月入学者)

国籍別学生数 (学部生)



2011年度CJSP1年生(工場見学後に、トヨタ会館で)



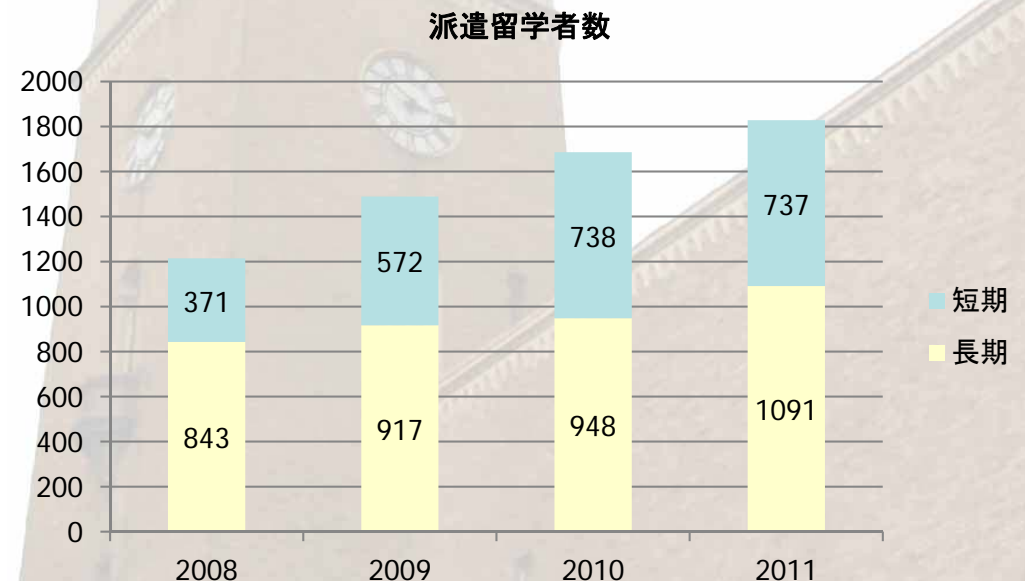
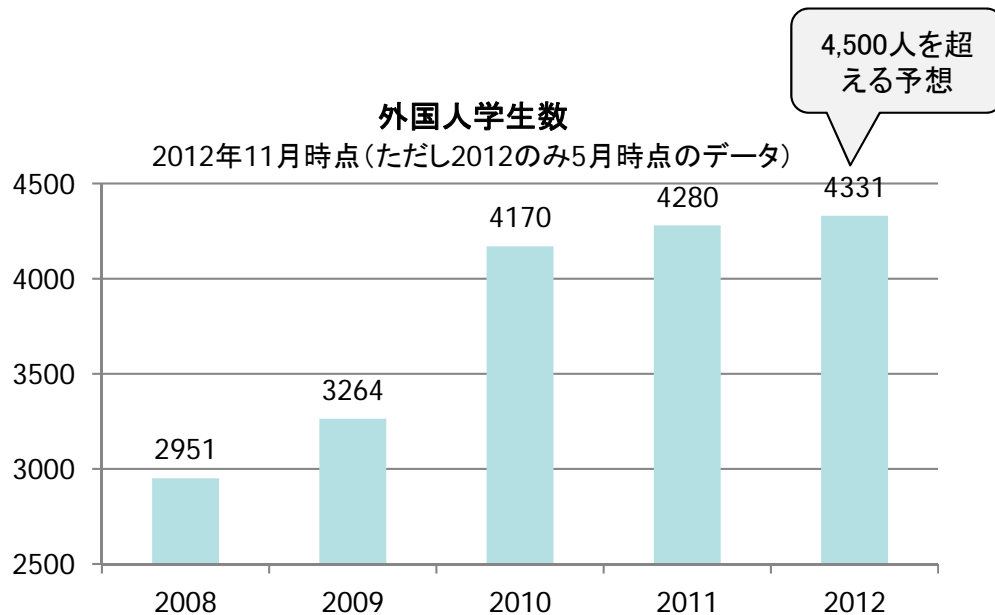
③外国人学生の受入及び派遣実績

外国人学生受入

早稲田大学は、外国人学生の受け入れを積極的に進め、特に過去5年間は、47%増加という高い伸びを示しました。2011年度については、東北大震災の影響で伸びが鈍りましたが、2012年度については、5月時点で4331人であり、最終的には4,500人を超えることが予想されます。

日本人学生派遣

日本人学生の内向き志向が指摘される中、早稲田の学生を対象にした意識調査では、82%の学生が学生時代に何らかの海外経験を積むことを希望しています。それらの学生の意識と、近年の大学側の留学の環境整備の効果により、留学した学生数は、2008年度比で57%増加しました。今後もコンスタントに増加していくことが予想されます。





④海外大学との連携プログラムの新たな実施

教育の国際化

「グローバルオナーズカレッジ」プログラム ～国境を越えた課題解決～

早稲田大学は、世界のトップクラス大学7校(コロンビア大学、イエール大学、ハーヴァード大学、ワシントン大学、北京大学、高麗大学、シンガポール国立大学)と、『グローバルオナーズカレッジ』プログラムを実施し、現代社会が抱える地球規模の課題(グローバル・イシュー)について議論するプログラムを開発しました。

「ダブルディグリープログラム」～世界に通用する学位付与システム～

本学のダブルディグリー・プログラムは2005年度から順次、北京大学、復旦大学、ナンヤン理工大學、国立台湾大学、シンガポール国立大学、コロンビア大学と実現しています。2012年には、本学の大学院環境・エネルギー研究科と北京大学環境理工學院との間で修士課程ダブルディグリープログラムによる学生の派遣および受入れを開始しました。また高麗大学校と政治経済学部とのプログラムも検討中です。

「サマースクール」～日本人学生の国際化～

イエール大学サマープログラム、早稲田・オレゴンSummer Japaneseプログラム、アジア太平洋研究科サマースクールを開設し、短期間の留学のニーズに応えるプログラムを発展させました。

「Global College - Asian Business Studies」～将来のビジネスパーソンを育成～

本学、香港中文大学、復旦大学の各大学より10名ずつ学生を選抜し、その30名が各大学に半年ずつ在学してアジアのビジネスについて学習を進める画期的なプログラムを開発しました。

研究の国際化

共同研究

- ・高雄医学大学(台湾)との医工連携プログラムの試験的な実施
- ・大連理工大学共同育成プログラム(ソフトウェア分野)

共同大学院の設置

北京大学環境理工學院と「環境・持続可能発展学」分野における共同大学院を設置しました。



「グローバルオナーズカレッジ」プログラム



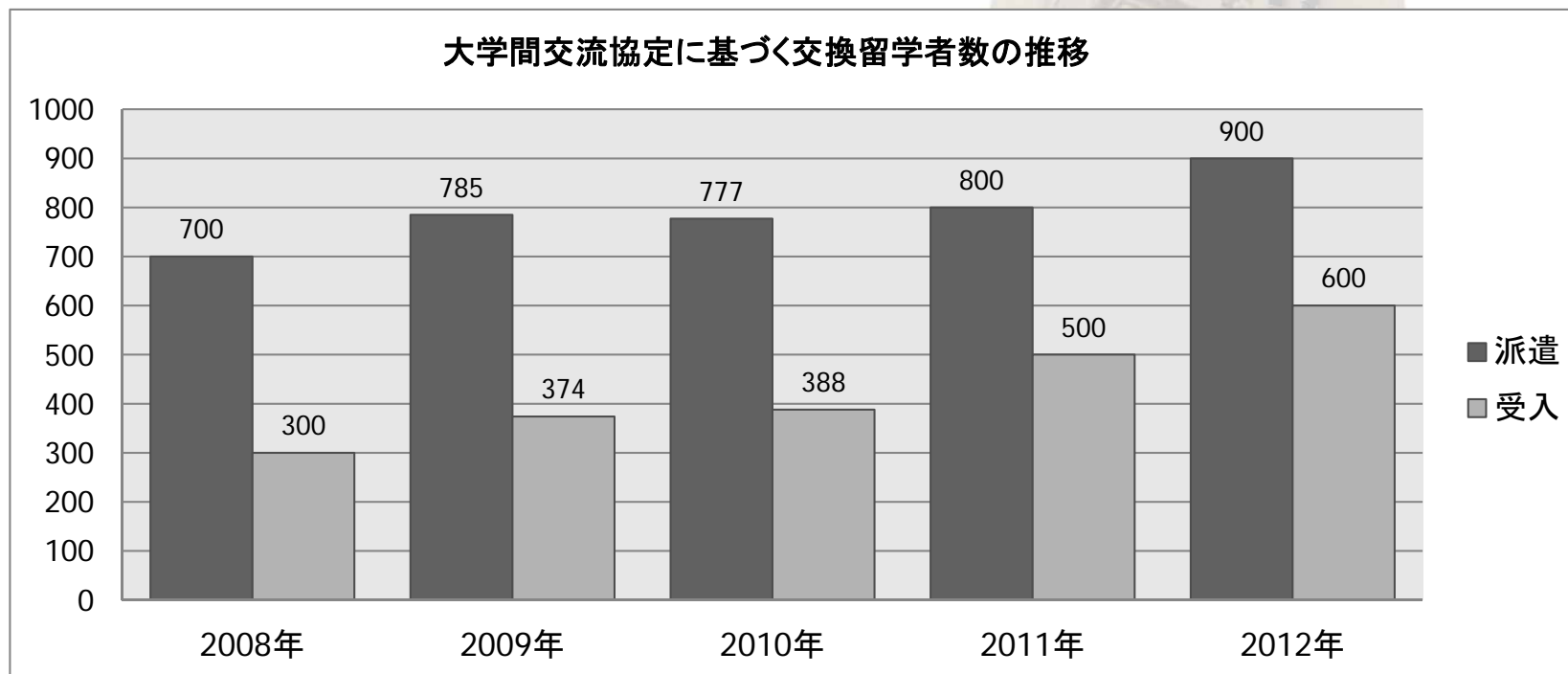
「イエール大学サマープログラム」



⑤大学間交流協定等に基づく交換留学の拡大

大学間協定に基づく学生の受入・派遣

下記の通り、大学間協定に基づく学生の受入・派遣は着実に増加しています。一方、本学では、大学全体で国際化を進めていることから、各学部、大学院が独自に結んだ協定(箇所間協定)で留学する学生も多くなっています。実際、2012年度には、大学間・箇所間を合わせて4000名を越える外国人留学生を受け入れました。また日本人学生の国際化についても力を入れており、学生のニーズに合わせた短期プログラムの開発などにより、毎年着実に派遣学生数が増加しています。



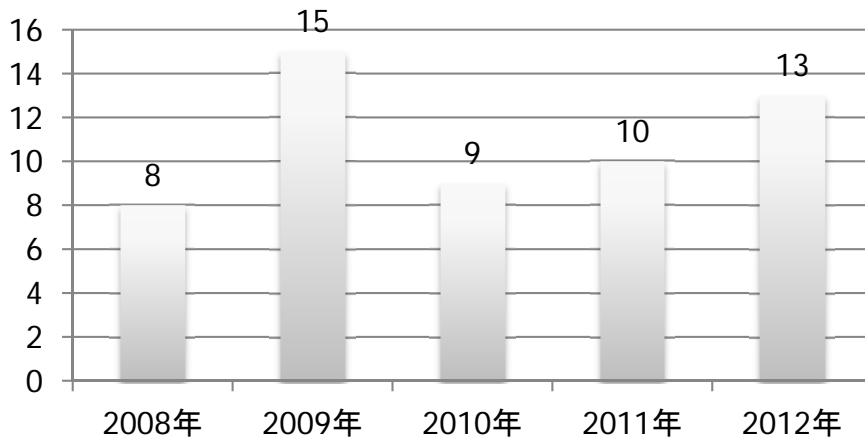


⑥教育体制の充実

授業の質の向上(ファカルティー・ディベロップメント(FD)の実施)

本学は2008年度より米国内協定校での研修を実施しています。米国協定校に2～3週間派遣し、教授法ワークショップ、英語によるプレゼンテーションスキル講座、授業見学、模擬授業などの研修を実施しています。過去5年間で54名(2012年度予定を含む)の教員が参加しています。更に、2012年度については海外から講師を招き、本学の新任教員等を対象に1日FDプログラム(46名参加)を実施しました。

海外の大学へのFD研修 派遣人数



参加教員の声(報告書より)

- ✓分野・教授方法ともにさまざまなクラスを見ることができとても参考になりました。
- ✓模擬授業は大変役に立ちました。実際に行うことは大変大きな経験となります。また、最後に模擬授業があるため、終わりが近づいてもだれることなく集中することになりました。
- ✓教授法に関する授業は非常に参考になった。これまで教育するための教育を受けたことがなかったため、本FDでの授業では学ぶべきことが多く、自分自身を省みる良い機会であった。
- ✓インタラクティブに授業を運営する方法、ブルームのタクソノミーに基づいて、授業の理解度の深さを考えながら授業を運営する方法などは、学部および大学院の授業に取り入れていきたい。
- ✓授業だけでなく、大学が実施している様々なプログラムについて学ぶ機会をつくっていただきました。
- ✓英語を用いた講義を始めているが、来年はさらにオープン教育科目を英語で行う安心感をもった。

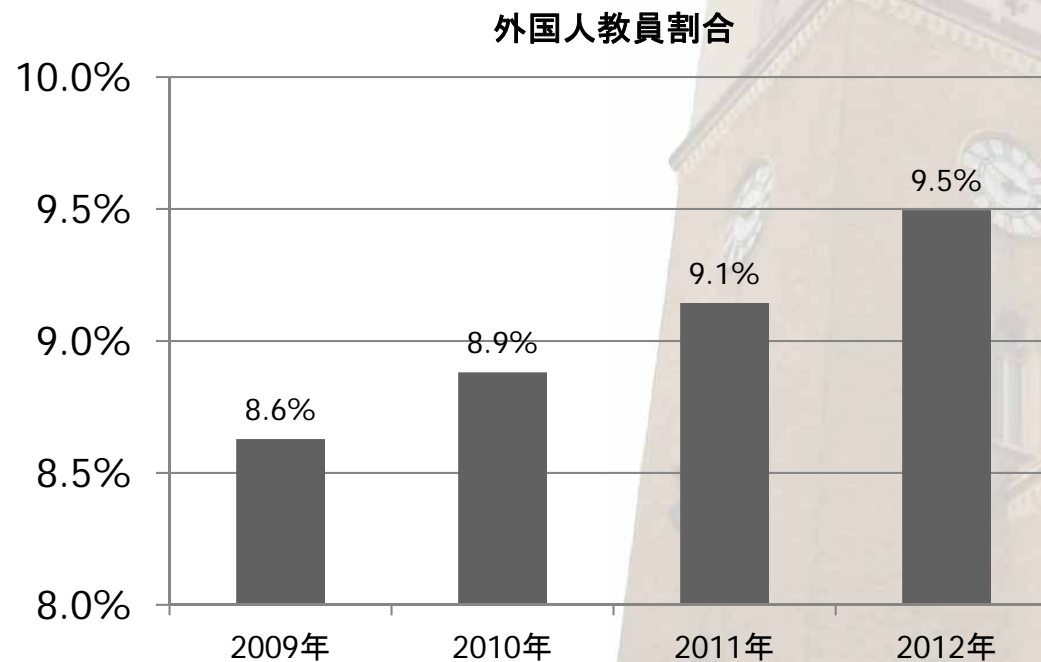




⑥教育体制の充実

外国人教員・国際経験のある日本人教員の雇用

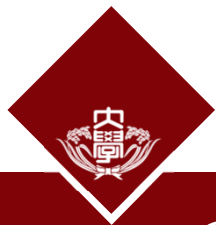
本学では、多様な学問・文化・言語・精神が交流するグローバルな教育研究拠点を形成するため、外国人教員の採用を積極的に行っています。近年、新規採用における外国人教員の割合は12%程度であり、それに伴って全体に対する外国人教員の割合も着実に増えています。同様に、国際経験のある日本人教員(国外の大学での学位取得、通算1年以上国外で教育研究に従事した教員)の割合も増えています。





3. 取組状況





①英語による授業のみで学位が取得できるコース

a. 開設コース

2010年9月より政治経済学部と大学院、理工3学部と3大学院のコースが順調にスタートしました。翌年、2011年9月からは社会科学部のコースが開講しました。さらに2012年9月には同大学院コースが開講しています。これにより計画された英語学位コース(学部5コース、大学院9コース)が全て開講されることとなりました。

b. 学生の確保に向けた取り組み

AO入試: 多様な学生の確保のため、AO方式の入学試験を導入しています。より良い入試制度の実現のため、実施方法、出願資格、実施時期、統一試験結果、提出物等々について常に見直しを行い改善を行っています。

指定校推薦: 特に優秀な学生の確保を目的として、指定校推薦入試を導入しました。2011年9月入学試験より、中国、韓国、台湾の優秀高校を選定しています。

コース名	学部名	開設時期	学位	在籍者数 (2012年4月現在)
グローバル日本政治経済コース	政治経済学部	2010/9	B	60人
政治学コース / 国際政治経済学コース	政治学研究科	2010/9	M	6人
経済学コース / 国際政治経済学コース	経済学研究科	2010/9	M	41人
国際コース(英語コース)	基幹・創造・先進理工学部	2010/9	B	43人
国際コース(英語コース)	基幹・創造・先進理工学研究科	2010/9	M/D	75人
現代日本学プログラム(現代日本学コース)	社会科学部	2011/9	B	24人
現代日本学プログラム(現代日本学コース)	社会科学研究科	2012/9	M/D	3人(2012/9現在)



①英語による授業のみで学位が取得できるコース

c. 質の高い教育の提供への取組

教員:国際学会の創設メンバー、海外大学での学部長経験者、複数の国で教育研究活動実績を有する者等、国際的に教育・研究活動の実績のある教員を採用することで、より多様な授業や研究指導を留学生に提供する体制が整備されてきました。

新規雇用:面接時に模擬授業を課したことにより、本学のニーズにあった教員の獲得が可能となりました。

カリキュラム・教材:カリキュラム作成については、海外での教育研究経験の豊富な教員が参画し、策定してきました。また各担当教員が教科書以外にも独自の教材作成を進めています。

体制整備:当該事業実施箇所では、教員や職員の補充、研修を通して、コース設置のための体制整備を綿密に行ってきました。

全学協力体制:当該事業実施箇所(学部や大学院)と、全学組織である国際部、教務部との会議を毎週開催することで、実施上の諸問題の把握と対応、さらに学生サポートを迅速に行う支援体制が構築されてきました。

d. 教育の質向上への取組

FD(ファカルティ・ディベロップメント):早稲田大学ではFDを重要施策と位置付け、全学的な組織であるFD推進委員会、FD推進センターを設置し、FD活動の充実化、実質化のための体制を強化しています。また、本学教員を米国指定校に派遣して研修を行うなど、授業力の底上げを図っています。

GPA: GPAの全学的導入を行うと共に、2010年度入学者より、全学統一方式の成績評価指標を導入しています。また、WEBシラバス掲載項目を改善し、学生に提供する授業情報の充実化を図っています。

学生授業アンケート:全学的な実施と回答方法の改善により、回答率を向上させ実効性・有効性を高めています。

授業支援システム:全学的な授業支援ITシステムの導入促進により授業での活用を高めてきました。

学生指導の充実:出席状況や単位取得状況が芳しくない学生への手厚い指導に取り組んできました。



②留学生受入のための環境整備

留学生受入れ体制の充実

○ 入学試験等の一元化

「国際アドミッションズ・オフィス」を設置することで、受験生から見て分かりやすい入試制度を実現するとともに、各学部・大学院が個別に運用していた海外学生募集活動・出願処理についても学内の一元化を図りました。更に、積極的に諸外国でのリクルート活動を実施し、世界中からの優秀な学生の獲得に努めました。

○ 渡日を要さない入学試験の実施

質の高い留学生を確保するため、渡日を要さない新入学試験制度を立ち上げました。

例：政経学部・理工3学部・社会科学総合学術院におけるAO入試や指定校入試、頂新国際集団康師傅控股有限公司奨学生入学制度、ベトナム教育訓練省国際教育開発局派遣学生受入制度

○ 奨学金の充実

国際化拠点整備事業奨学金、本学独自奨学金、国外からの奨学金も充実させ、日本に留学しやすい環境を整備してきました。

例：中国国家建設高水準大学公費派遣研究生奨学金、ASEANおよび域内各国政府派遣学生奨学金・アジア特別奨学金、頂新国際集団 康師傅控股有限公司奨学金等

○ 制度改革

留学を促進するクォーター制の導入、教育の質をより向上させる日本語教育コースの再構築、インストラクター制の導入などを行っています。

○ 留学生寮の強化

留学生が入居可能な学生寮の拡充のため、既存の学生寮計20棟(計1,313名収容可能)に加えて、2014年度に900名収容可能な大規模学生寮「早稲田大学中野国際コミュニティプラザ」が完成する予定です。この寮は、本学のその他の学生寮と同様に日本人学生と留学生の混住型学生寮となり、国際交流が深まることが期待されます。また地域住民との交流も積極的に行っていきます。



G30奨学金事業については、2009年度より運用を開始し、大学院修士課程へ海外から新たに入学してくる学生を中心に対象者を決定してきました。これまでに合計35名、12か国の学生に当該奨学金を支給しています。



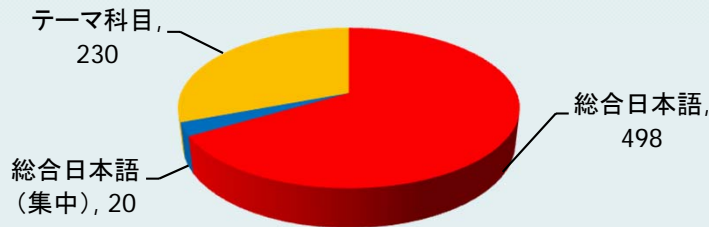
②留学生受入のための環境整備

○日本語支援

留学生が日本語の能力を高めることは、日本での生活、及び就職等を含む留学生のキャリアに大きな意味があると考え、日本語教育研究科を設置するなど、留学生の日本語教育に力を入れています。

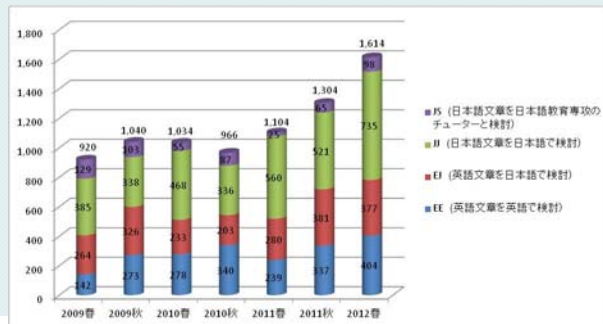
①日本語学習科目の設置

科目カテゴリーごとの履修単位数(2012年度後期)



②ライティングセンター設置

～留学生の文章指導に対応するための体制づくり～
研究助手2名を雇用し、指導を担当するチューターを育成



○留学生のキャリア支援

本学のキャリアセンターでは、留学生の就職支援を充実させ、グローバル人材の出口支援を強化しています。

- ✓ 英語による個別相談
- ✓ 外国人留学生のための就職活動ガイダンス
- ✓ 各種セミナー(就職活動の基本、日本における業界・企業、エントリーシートの書き方、面接対策、グループディスカッション対策、面接マナー)等を実施
- ✓ 学内企業説明会の実施: 留学生積極採用企業 約200社を紹介
- ✓ 特定活動ビザ取得のための推薦状発行。また特定活動ビザで就職活動中の既卒者に対し、在学生と同様の支援を継続実施。





③拠点大学の国際化とネットワーク形成

a. 大学の国際化

本学では戦略的かつ多角的に大学の国際化を進めています。国際化を4つの視点:「教育」「研究」「経営基盤・インフラ」「社会貢献」として捉え、国際化のための具体的な施策を進めています。

b. 海外機関とのネットワークの形成

本学はこれまで積極的に海外の大学と協定を結び、学生交流、研究者交流を行ってきました。2011年度時点での協定校は、417大学(77か国)に及びます。今後は、それらのネットワークの質の追及を図っていきます。また、世界的に有名な大学と各種のコンソーシアムを組み、世界の潮流を意識しながら国際化を進めています。

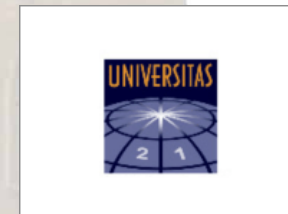
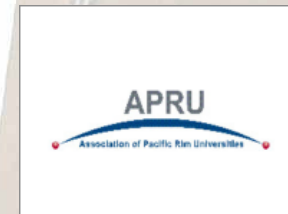
早稲田大学協定校一覧

Type of Agreement	Number of Agreements	Number of Universities/Institutions	Number of Countries
University-wide Agreements 大学協定	348	417	77

【海外コンソーシアム】

- APRU (Association of Pacific Rim Universities)
- U21 (Universitas 21)
- IAU (International Association of Universities)
- Venice International University
- APAIE (Asia-Pacific Association for International Education)

Global Network





③拠点大学の国際化とネットワーク形成

c. 国際化を支える大学経営:

○海外拠点

海外拠点(本学スタッフが駐在する事務所:アジア5か所、米国3か所、欧州2か所、計10か所)を整備し、研究教育プロジェクト支援、本学からの派遣留学生の学習・生活支援ならびに危機対応、周辺地域における学生募集・選考支援等の活動を地域のニーズに合わせて行っています。

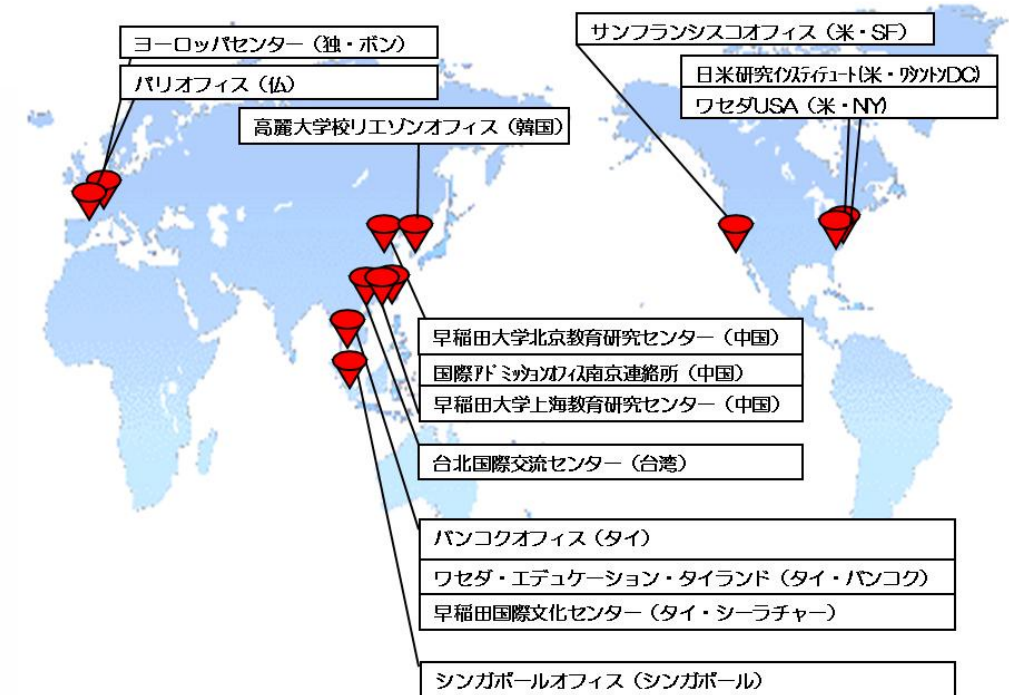
○外国人教員等支援の充実

平成21年11月より外国人教員及びその家族の日本における生活を支援するために、日本での宿舍確保支援、在留手続、医療サービス情報提供等をワンストップで受けられる「International Scholar Services (ISS)」を設置しました。ISSでは手続きのみならず、ソーシャル活動等も企画し、日本での生活に馴染むことができるように配慮しています。

○国際化に対応した事務機能の強化

G30関連箇所や国際系の箇所には、キャリア採用、新卒採用および人事異動を通じて、特に留学経験、海外業務経験、外国籍(実績:中国、韓国、シンガポール)等を考慮した人事配置を行っています。また職員に対して、例えば海外協定校でのスタッフ・ディベロップメント・プログラム(SD)等の多様な研修を実施しています。更に新たに翻訳センターを設置したことで、学内の事務文書の多くの英語化が進みました。

海外拠点





③拠点大学の国際化とネットワーク形成

d. 海外大学共同利用事務所（ボン ヨーロッパセンター）

本学が担当するドイツ・ボンのヨーロッパセンターは、本学の研究・教育支援施設として1999年に設立されました。設立当初より、常勤職員をおき、本学とドイツの間の教育・研究交流を支援しています。

○現地における国内大学に関する広報活動

ドイツ国内およびその近隣国の大学が開催する留学フェアに5回参加し、日本の大学についての情報を提供してきました。

○ワンストップサービス等の提供

事務所の機能拡充に努め、事務所内に外部に提供できる会議スペースを確保したほか、G30プログラムや日本の大学についての情報を収集し、希望者に提供できる体制ができました。またテレビ会議システムを用いての遠隔会議や面接などにも対応できる環境整備を行いました。

【他大学利用実績】

- ✓ドイツ国内の高等教育事情の説明
- ✓海外事務所としての業務経験の照会
- ✓TV会議システムを用いた遠隔面接



海外大学共同利用事務所(ボン)



日本留学フェア(2011年12月:ボン)



③拠点大学の国際化とネットワーク形成

e. 評価の実施と改善

○中間評価結果における指摘事業等への対応状況

中間評価結果において指摘のあった「教育内容、成績評価などに関し、全学的な質の管理のためのシステム構築の必要性」については、現在新たに策定を進めている新中長期計画の中で、**教育の質の保証についての取り組み**を継続させる方針です。その中で、これまで実施してきたTutorial Englishや「学術的文書の作成」「万人の数学」などの**全学基盤教育**をさらに推進させ、Teaching and Learning Center (仮称:教育・学習支援センター)などの設置に向け検討を進めると共に、本学の教育の**質の向上を広く社会全般に周知**できるような方法を検討していく予定です。さらに**成績管理のあり方や学生授業アンケートを通じた教育改善**の活用を進めていきます。学生による授業アンケート以外にも、**分野ごとの学科目委員会**を通じての定期的な内容検討と相互確認の実施により、個別の問題点や課題を改善することで、より質の高い教育機会提供に努めます。

もう1つの指摘事項である「支援期間終了後の展開について、予算面も含め、より具体的に計画することが望まれる」については、特に教員人件費について、専任教員の定年退職や既に雇用した任期付教員の補充時に、**英語による授業実施が可能な教員の採用**に努力していきます。一方、新たな教員採用にも限界があることから、これまで実施してきたようなFDプログラムなどの研修を充実させて、**既存の教員の英語運用能力の底上げ**を図ります。職員人件費については、団塊世代職員の退職の際に、国際系業務に対応できる人材の採用を行い、同時に研修を充実させることにより、**国際化に対応する職員の育成**につとめていきます。そのほかの経費については、当該事業継続中にも、可能な限り集中的に配賦することとしてきましたが、当該事業終了後にも引き続き選択と集中を進め、効率的な運営を実現することで、それぞれの費目での執行を徹底していきます。

なお、今後、G30事業を含む国際課拠点整備事業全体の評価について客観性を持たせるため、**外部評価**を行う準備を進めています。



4. 経費の使用状況





①経費使用実績

○実績額の推移と使用実績

当該事業の2年目に補助金額の削減がありました。必要不可欠な項目を中心に予算を配分し効果的な執行に努めました。また初年度はWebページの英語化等の基盤整備のための支出が多くを占めました。2年目以降は実際に執行を推進する人件費に多くを支出しました。

○内部監査等の実施

学内監査部門による公的補助金の監査のほか、各箇所については、当該事業全体の運営を担当する国際部が中心となり、関係箇所の予算執行状況についての検査を実施しました。

(平成21年度)

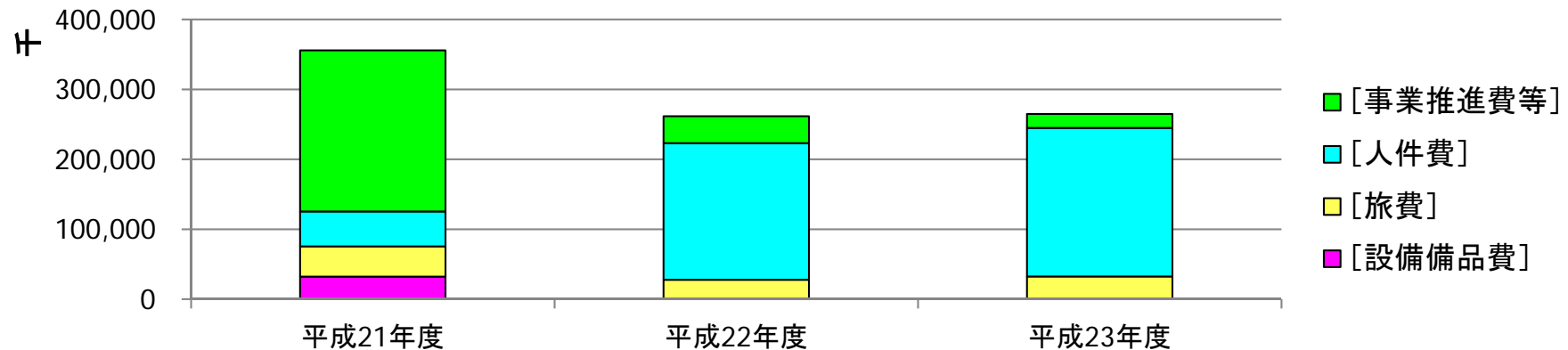
当該事業実施の初年度は、G30事業実施の基盤整備を中心とした予算執行を実施しました。そのため、予算配分の重点を当該事業の海外リクルート活動費、学内事務文書および関連箇所のWEBページの英語化を進めました。また当該事業のための事務組織の強化を図ったことから、必要となる事務職員の雇用を実施したほか、関係職員への研修などの支出を行いました。

(平成22年度)

当該事業の2年目は、当初予定されていた補助金額の支援が受けられなかったため、当該事業実施に不可欠な人件費を中心に補助金を優先的に配分しました。そのほかの予算執行に当たっては、学内関係箇所に必要とされる必要経費の詳細についてヒアリングを行い、そのうえで適切な配分を行い、効果的な補助金執行になるように努めました。

(平成23年度)

当該事業の3年目ということで、学内のG30対象箇所が全て出揃い、それらの対象箇所の基盤整備を中心に予算の執行を行いました。また、本学が担当するポンの海外大学共同利用事務所を中心に、欧州地域での日本の大学の留学フェアを実施するなど、広報活動の強化に努めました。





5. 今後の取組施策と事業終了後の見通し



①今後の重点項目と取組施策

これまで本学は早い段階から積極的に国際化に取り組み、国際化の観点で日本をリードする存在となりました。しかしながら、グローバルでの大学間の競争は激しさを増しており、一層の国際化への取り組みが必要と認識しています。以下、今後、Global30の取り組みを全学の改革につなげていきます。以下の項目は、本学の改革プランWaseda Vision150の中で重点的に取り組んでいく分野です。

項目	現状と20年後の目標数値	実現のための施策
外国人学生	2012年5月現在、4,331名の外国人学生が本学で学んでいるが、全学整数に対する比率にすると8%に過ぎない。キャンパスの国際化を推進するため、20年後までに20%に比率を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 入試制度の抜本的改革：世界の様々な国、地域から受験が可能な入試の開発。秋学期入試を本格的に導入。 外国人留学生就職活動支援の強化・整備 奨学金制度設計・見直し 学生寮の整備（中野国際コミュニティプラザ）
派遣留学生	2011年度、1,828名の本学学生を海外の大学に送り出しているが、グローバル化する社会に対応できる人材を育成するためには、20年後までに全員の学生を留学させる。	<ul style="list-style-type: none"> 学部・大学院におけるクォーター制の導入。 留学、海外フィールドワーク、国際ボランティアなど、海外での学習を経験するための体系を整備 学部のカリキュラムに密接に連携した国際教育プログラム（SSA）の開発。中期・短期留学プログラムの開発・ 留学生経験者出口支援の強化
外国人教員	2011年度、141名の外国人教員が教壇に立っているが、教育の国際化を進めるためには、20年後までに400名（20%）に引き上げる。	<ul style="list-style-type: none"> 教員採用ポリシーの検討 教員の受入体制の整備 評価制度の見直し
外国語による授業数	2012年度、外国語の授業の割合は学部で6%、大学院で9%となっている。留学生の対応、教育の国際化の実現のためには50%の割合まで引き上げる。	<ul style="list-style-type: none"> ファカルティ・ディベロップメント（FD）の推進 教材作成サポート体制の検討



②事業終了後(2014~)の見通し

グローバルリーダー育成

社会のグローバル化に伴い、特に産業界から世界で活躍できる『グローバル人材育成』が、重要テーマとして認識され始めています。本学は、文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」に採択され、今後、この分野に一層注力していきます。具体的には、『早稲田発・グローバル社会への次なる貢献Waseda Initiatives for the Next Globalization Stage (WINGS)』を推進していきます。

本構想では、早稲田生の海外での国際的な学びと国内での国際的な学びの機会を量・質ともに飛躍的に拡充します。2つのキーワードは、「知識と実践の学びのスパイラル」と「学部生全員の海外留学」です。

